

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4694400013
法人名	株式会社 ハヤシ商事
事業所名	グループホーム ガーデンハウス忠元
所在地	鹿児島県伊佐市大口里1564番地5 (電話) 0995-29-5007
自己評価作成日	令和2年3月1日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は伊佐盆地の山並みと市街地が眺望できる高台にあり、建物の周囲は一面に芝が広がる庭になっています。近くには桜名所の忠元公園があり、恵まれた自然環境の中で、天気の良い日は散歩や外気浴を行っています。建物には太陽光発電を設置してオール電化を導入しています。窓ガラスは2重、床は3層張りで寒さ暑さ対策が施され、木の温もりが感じられる過ごしやすい構造となっています。健康保持と一日のコミュニケーションの始まりとして毎朝ラジオ体操とレクリエーションを実施しています。又、敷地内に地域密着型特養施設があり、夏祭りや慰問がある場合は交流が行われています。

ホームは伊佐市街地から少し離れた、桜の名所「忠元公園」に近い眺めの良い高台に建てられている。敷地内には地域密着型介護老人福祉施設があり、職員は夏祭りやボランティアによる慰問等を受ける時には一緒に連携を取り、週1回の本社での朝礼等でも情報交換できる体制にある。また、周囲には多くの木々や芝生が植えられ、緑豊かで広々とした静かな環境となっている。

利用者の人格を尊重し、家庭的で地域に密着した環境の下で、「安心」「安全」な継続した生活が送れるように支援することを理念として掲げている。職員は常に理念に基づいてケアの振り返りを行い、特に環境整備、地域との交流、個人の安全確保、利用者の話を傾聴すること等を意識して日々のケアに臨み、利用者中心の支援となるように取り組んでいる。管理者は地域との繋がりが大切であると感じており、自治会への加入や地域の総会・美化作業への参加、ホームの夏祭りに地域住民が多数参加するなど地域との交流に努めているが、今後は更に地域の文化祭に参加したり、情報を発信できる関係性を構築していきたいと考えている。

ホームには協力医療機関が複数あり、訪問診療や往診、訪問歯科診療により入居者の日常の健康管理が行われているが、入居前のかかりつけ医による診療も継続することができ、これらの医療サポートを受けられる体制が整備されていることで、利用者及び家族は身体的・精神的な安心感を得ることができている。職員も、情報の提供や共有に努め、利用者や家族の意向に沿えるような支援ができることを目指している。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	常に理念を意識してケアの振り返りができるよう、朝礼時は理念の唱和を行っている。	理念を玄関や事務室に掲示して朝礼で唱和し、職員の理念に対する意識を高めている。勉強会や研究会等に積極的に参加して職員の質の向上を図ること、また避難訓練を重ねることにより災害時に適切な行動が取れることを運営方針に対する目標として設定し、サービスの向上に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃活動や総会に参加している。定期的に回覧板も回ってきている。事業所の夏祭りの案内も回覧板を利用させていただいている。	自治会に加入して地区の総会や美化作業に参加し、地域住民とは日頃から交流が図れている。ホームの夏祭りには地域住民も多数参加され、ボランティアや慰問の踊りの受け入れ、保育園児との交流等もあるが、今後は地域の文化祭への作品出展について検討していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	運営推進会議で事業所の現状報告をしたり事業所便りを配布して理解と協力がいただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや入居者状況を報告し、参加者からは積極的に率直な意見を出していただき、サービスの向上に繋げている。	運営推進会議は利用者、家族、自治会長、市・地域包括支援センターの職員、地域児童委員、住民代表等が出席して2か月毎に開催されている。ホームの活動内容、入居者の状況、ヒヤリハット等について報告され、家族からも意見や要望が出されて、検討した後速やかに対応できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や地域密着型サービス連絡会や医療連携会議で事業所の実情を報告したり、直接出向いて助言や協力をいただいている。	市の職員とは運営推進会議や地域密着型サービス連絡会等で顔を合わせる他、介護保険関係書類の提出、窓口・電話での相談等を通して、いつでも気軽に話せる関係性が構築され、ホームの実情についての理解・協力も得られ、十分な連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の弊害や拘束を行わないケアについて学習している。特にスピーチロックについては職員同士注意し合っていくようにしている。	「身体拘束等適正化のための指針」に基づいて入居時に家族に説明し、同意を得ている。身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催し、その中で年2回は身体拘束についての原則や、やむを得ない場合の対応法等について勉強会を行っている。特に言葉による拘束に対しては、職員間で注意し合って十分配慮するように心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について勉強会を行い、虐待のない利用者本位のサービスが提供できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度の勉強会を行い、理解に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者やご家族には事前に見学に来ていただき、パンフレットや事業所発行の便りなどで説明を行い、納得していただいた上で入居していただけるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見要望等が出しやすい雰囲気づくりに努めている。可能な限り意向に沿えるよう、アンケート調査を行ったり、意見箱の設置もしている。	運営に関する意見や要望について、利用者からは日頃の関わりを通して、また家族からは面会や家族会、アンケート等を通して把握するように努めている。意見箱も設置しているが、職員に直接話されることが多く、2か月毎に「ホーム便り」を請求書に同封して送付するなど、意見・要望を出してもらえるように工夫している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日頃の申し送り時以外にも、連絡ノートを活用したり日頃の会話の中で意見を聴くようにし、サービスの向上に繋げている。	管理者はいつでも自由に職員の意見等を聞く姿勢を示しており、職員会議や申し送り、自由に意見を書ける連絡ノート、個人面談等により、把握するように努めている。希望休にもできるだけ対応して、働きやすい環境づくりに努め、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月々のレクリエーション担当や居室担当を決め、やりがいを持って就労できるようにしている。又、勤務については可能な限り職員の意向に沿えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の事業所内研修以外にも希望者には外部の研修に参加できるようにしている。資格取得に向けた支援もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡会や医療介護連携会議、県のグループホーム協議会に参加して勉強会や情報交換を行い交流を図り、事業所の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や生活歴、身体状況等をアセスメントし、本人の思いを大切にしたい関わりを行うことで不安の解消や望みの実現に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望を出していただき、事業所としてできる限り意向に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望む生活ができるように、他の適切なサービスの提示もさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支え合う関係を大切にし、個々の能力に応じてできる事は一緒にしていただけるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と情報交換しながら、共に支えていく関係が構築しているようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られる家族や友人を歓迎し、ゆっくり過ごしていただけるようにもてなしている。 又、かかりつけ医院への受診援助を行ったり、行きつけの美容院やお墓参りなどができるようにご家族の支援も受けている。	利用者を取り巻く人間関係や馴染みの関係について、入居時に本人・家族・知人等から聞き取っている。携帯電話でのやりとりや手紙の取り次ぎ、行きつけの美容室、墓参り、かかりつけ医受診、自宅への一時帰宅、買い物等の外出など、家族の協力を貰いながら繋がりを維持できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操・レクリエーションや洗濯物干し、畳みなどで入居者同士が交流できる機会を設け、お互いを気遣い支え合う関係が構築できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や施設へ面会に行ったりして関係継続に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、思いを把握したり、個別に要望を聴くようにしている。又、入居者との会話の内容は職員間で共有できるようにしている。	利用者の思いや希望は、日頃のケアの中で表情や仕草等から把握し、家族からの意見も参考にして理解するように努めている。脳トレ、パズル、毎月の作品作り、レクリエーション等のコミュニケーションを通して、一人ひとりの思いに寄り添い、職員間でも情報を共有し合って支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネや病院からの情報以外にも、本人や家族からも聴き取りを行い、望む暮らしが実現できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者とのふれ合いの中で、できる事や興味のあることを見出し、生活が充実したものとなる環境が提供できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成を作成する際は、本人、家族の意向や主治医、職員の意見を反映し、現状に即した介護計画が作成できるようにしている。	利用者や家族の思いや意見を十分に把握した上で、連絡ノート、介護記録、主治医や職員の意見等も参考にしながら、3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎に介護計画を作成している。入退院等により身体状況が変化した場合や本人・家族の要望の変化に応じて、臨機応変に計画を見直し、現状に合わせた計画となるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の様子やケア内容を記録している。その他にも職員連絡帳を活用して情報共有を図り、適切な対応ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて臨機応変に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今まで生活してこられた繋がりを大切にし、暮らしを楽しむことができるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の決定は本人や家族の意向に沿うようにしている。必要に受診付添を行い、情報提供や意見を伺っている。訪問診療や往診もしていただいている。	入居後のかかりつけ医はこれまでの馴染みの医師により継続的な医療サポートを受けられるように、家族と共に協力し合って支援している。2週間毎の協力医療機関による訪問診療や必要時の往診、訪問歯科医による診療等があり、受診結果は連絡ノートに記録して職員間で共有し、他科受診は家族同伴で行われている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	午前と午後健康チェックを行い異常の早期発見に努めている。状態変化時は報告相談行い、医療機関や家族へ連絡し受診援助を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際は医療機関へ情報提供を行っている。入院先を訪問し家族との情報交換も行いながら回復状態に合わせて退院支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期や重度化した場合の在り方についての意向を伺っている。医療行為が常時必要になった場合は、対応できない場合もあることをお話している。	契約時、家族に対しては「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて説明し、同意を得ている。ホームでの看取りは行っておらず、食事の摂取が困難となったり、常時継続的に医療が必要となった場合には、ホームの体制として対応が困難になることを家族には了承してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A E Dを設置し、職員は急変時の対応や応急手当ができるように定期的に勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震、夜間想定等の避難訓練を実施している。消防署や地域、ご家族の方にも参加していただき指導と協力をいただいている。非常食の備蓄も行っている。	年2回のうち1回は消防署職員の協力を貰って、火災・地震・土砂災害に対して、夜間想定も含めた避難訓練を行っている。自治会長・家族・地域住民の参加や協力もあり、災害時には地域の有線放送により全世帯に連絡される体制も整っている。備蓄は2ユニット一緒に飲料水・缶詰等の食品は3日分、一覧表で管理されており、コンロ・懐中電灯等の災害用品も準備している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の個性や人格を尊重し、プライドを傷つけない声掛けや対応をするように勉強会を行ったり、職員同士注意し合っている。	「接遇マニュアル」「プライバシー保護規程」を作成し、内部研修を実施したり、日頃から言葉遣いやプライバシーを損ねない対応に心がけている。特に利用者への声かけについてはフェイスシートで個人毎に確認し、職員の不適切な言葉に対してはその場で注意するなど、職員間で統一した対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いが表出できるような声掛けを行い、本人の思いを尊重し本人が望む支援ができるようにしている。服装も本人に選んで着用していただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、体調や好みに合わせて過ごしていただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪は定期的に職員が要望に応じて実施している。又、季節に合った服装ができるように家族に協力を依頼したり職員が購入支援を行っている。化粧をされる方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を尋ねたり、行事食の提供をしている。下ごしらえや盛り付け等できる方にはしていただいている。梅干しづくりやそば打ちを一緒にしている。	日々利用者に食べたいものを尋ねて、冷蔵庫内の食材を使用して献立表は作成せずに食事を作っている。利用者は可能な範囲で準備や後片付けを職員と一緒に、行事食・好きな物を提供する誕生会・花見弁当・外庭でのランチ等、食事が楽しいものとなるように努めて支援している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや減塩に配慮し、個々にあった食事形態や器を使用している。食事や水分量は過不足のないよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。能力を見極め、できない部分は介助している。必要に応じて歯科医の往診もしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して、定期的な声掛けや訴えに応じてトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。	日中はトイレでの排泄を基本としており、排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。食事前には全員に呼びかけることで自立が促されており、利用者によっては薬で排便コントロールしている者もあるが、食事や運動等により薬を使用しなくて済むような支援にも努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、食事内容に留意し、排泄状況を把握して服薬管理に反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	午後より体調を考慮して個々に合った入浴支援をしている。失禁等があった場合にはその都度シャワー浴や清拭を行っている。冬至にはゆず湯を提供し楽しんでいただいている。	週2回、午後に1対1の個浴で入浴支援を行っており、希望すればいつでも入浴は可能であり、清拭・シャワー浴・足浴等、必要に応じて方法を選択している。ゆず湯により季節を感じたり、シャンプー等は個人用の使用も可能であり、入浴後は水分摂取や軟膏塗布も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に居室で休息できるようにしている。空調や採光などにも配慮して気持ちよく休んでいただけるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容についてはいつでも確認できるように個々のファイルに綴っている。薬の変更があった場合は連絡ノートに記載して職員へ周知し観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意なことなどを把握し、役割や楽しみを持って充実した日々が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の景色や風物を楽しんでいただくためのドライブを行事計画に盛り込みお連れしている。又、家族とお墓参りや一時帰宅、外食などされている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、テラスでお茶を飲んで歌を歌ったり、弁当持参での花見や四季に合わせたドライブ等、屋外へ出かけるための支援に取り組んでいる。また、墓参りや一時帰宅など、家族と一緒に外出や外食をする機会も持てるように支援している。年末年始やお盆には自宅へ帰る利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの預り金を事業所で管理している。いつでも必要なものや欲しものは購入できるようになっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話を希望される場合はかけたり取り次いだりしている。手紙が届いた場合は読んで差し上げたりしている。年賀状や暑中見舞いハガキを家族宛に書いていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を玄関や洗面所に飾っている。又、入居者と一緒に季節の作品を制作し、ホールや居室に掲示して季節感が味わえる空間づくりを行っている。	玄関を中心に2つのユニットが正対称的に配置され、リビングの高い天井と天窓により採光も十分で明るく、和やかな雰囲気を感じられる。ホールには職員と一緒に作った季節の作品が展示され、空気清浄機が置かれて空調にも配慮されている。ホームの外にはプランタにキュウリやヘチマ等を植えてグリーンカーテンを作り、暑さを凌ぎつつ季節感を味わえるような工夫も成されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や窓際に椅子を置いて日光浴をしたり気ままにくつろげるようにしている。マッサージチェアもあり希望者は利用されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ち込んだり、写真を飾ったりして居心地よく過ごせるようにしている。	居室にはエアコン、電動ベッド、クローゼットが備えてあり、布団等のリネン類は利用者個人の物となっている。これまで使用していた馴染みの物やテレビ・位牌・小物収納等を自由に持ち込んで、色紙・写真・書道等の作品と共に飾り付け、本人らしい空間が作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内は全てバリアフリーで必要な個所には手すりが設置してある。トイレには分かりやすく表示がしてあり、可能な限り自立した生活ができるよう工夫されている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない